

令和7年度林業研究・技術開発推進関東・中部 ブロック会議育種分科会を開催

1. はじめに

令和7年9月30日(火)、都県との連携による林木育種の推進を目的として、令和7年度林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会が開催されました。本育種分科会には中部森林管理局、関東育種基本区の13都県等から計47名の参加がありました。なお、育種分科会は関東以外の各育種基本区でも、それぞれ同様の時期に、各育種基本区内の関係機関(林野庁・森林管理局、都道府県等)をメンバーとして開催されています。会議では林野庁から種苗関係予算について説明があり、林木育種センターからは、優良品種の開発、パンフレット「優良種苗のよりよい育成・利用に向けて」、ヒノキミニチュア採種園管理マニュアルなどについて報告しました。また、都県より特定母樹に関する取組や花粉症対策品種に対する取組、林木遺伝資源に対する取組などの紹介がありました。



写真1 ブロック会議育種分科会

2. 優良品種の開発

特定母樹については、令和6年度末現在、全国で573系統が指定され、そのうちエリートツリーが約7割(391系統)を占めています。今後、林木育種センターはエリートツリーのほか、少花粉品種等についても、特定母樹の基準を満たす系統については、特定母樹への申請を進めていくこととしています。

3. パンフレット「優良種苗のよりよい育成・利用に向けて」

平成30年度から令和4年度にかけて実施された農林水産技術会議・現場ニーズ対応型研究委託プロジェクト「成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発」の小課題「成長に優れた

苗木の育苗技術の高度化」において、優良種苗を活用して、山に植栽した後に優れた成長性を発揮し、再生林の効率化に貢献するようなコンテナ苗をいかに育成するかに焦点を当て、採種母樹の管理から植栽後の成長まで多岐にわたる研究が行われました。その研究成果を林木育種センターが取りまとめ、令和7年3月にパンフレット「優良種苗のよりよい育成・利用に向けて」を発行しています。



ホームページ
QRコード

4. ヒノキミニチュア採種園管理マニュアル

このマニュアルは、林野庁補助事業「花粉の少ない苗木の円滑な生産支援事業」(令和2年度～令和6年度)において得られた新しい知見や、これまでの研究論文・報告書等の情報を載せています。特に採種園における管理の方法として、従来の区画単位でのローテーションの他、個体内の枝単位でのローテーション管理の方法について紹介しています。樹形誘導、断幹、剪定方法といった施業管理の詳細を示し、作業工程やコスト削減の工夫も提示しています。また、種子の発芽率を低下させるカメムシ防除の方法や、着花促進のためのジベレリン処理の方法について詳細に紹介しています。さらに、採種園の造成計画や面積規模の算定例、球果採取量の予測など実務に役立つ情報を掲載しています。



写真2 ヒノキミニチュア採種園管理マニュアル



ホームページ
QRコード

(企画部 育種企画課 藤井 純)